

# 東部方面總監 関口泰一陸将 初度視察



初度視察において訓示する関口方面總監

新潟地本は、十一月十九日(木)、東部方面總監関口泰一陸将の初度視察を受けた。

関口總監は、本部到着後本部長から新潟県及び新潟地本の概況、特に募集・援護状況についての説明を受け、現在の新潟地本の状況について把握された。

各級指揮官はもとより一隊員に至るまで部隊及び自己の地位・役割を至当に認識し、「任務を基準」にあらゆる努力を志向することを強く求めた。新潟地方協力本部は、方面隊の任務達成に寄与してきた。今後とも佐藤本部長を核心として新潟地方協力本部を取り巻く環境に果敢に挑戦し、更なる募集・援護基盤の充実を図られた。諸官が佐藤本部長の統率の下、更に一致団結し全部員が「全ては任務を基準」を基本として任務に当たることが要望する(要約)と訓示された。

引き続き、本部長、副本部長、各課・所・室長と懇談を実施し新潟地本の初度視察を終了された。

新潟地本では、関口總監の訓示を受け、本部長を核心とし全部員が更に各種任務の達成に対し邁進していきたくとしている。

## 「全ては任務を基準」

雪椿

—新潟地本便り—



新潟地本  
広報室  
平成21年度  
冬号



状況報告



庁内巡視

## 災害時の地域情報収集 ネットワークを拡充・強化



十月三十一日  
本部長室において  
実施された委嘱式

新潟地本は、各種災害時における地域情報の収集ネットワークとして平成十九年三月発足の新潟県災害情報官制度を一部見直し、同制度の拡充・強化を図った。

この制度は、新潟地本独自の施策として、(社)隊友会新潟県隊友会の協力を得て当初発定したものであり、県内各市町村に一一一名程度を災害情報官として委嘱し、震度五弱以上の地震、風水害、山火事など地域の災害情報を地本に提供していた。また委嘱された方は、ボランティアとして活動し、原則として所在地付近の災害情報等のみを収集し、積極的な情報収集はしないこととしている。新潟県

の災害情報官は、これまで新潟県中越沖地震をはじめ、県内で発生した風水害、山火事などの際に地域情報を提供し、部隊活動に寄与してきた。

新潟地本では、平成二十一年末までに発定時の災害情報官が任期終了となることを受け、継続の方々を含めて新規の災害情報官を募り、十月三十一日(土)、十一月十四日(土)及び十五日(日)に委嘱式を実施した。人選に当たっては、これまで地域災害の情報収集空白域だった県北地域や離島(粟島村)などの情報を入手できるよう災害情報官の拡充を図り、隊友会員以外にも予備自衛官や自衛官募集相談員といった方々に依頼し、空白域に新規の災害情報官を配置することとした。

近年、地震、台風、山火事などの被害が後を絶たない状況で地域の被害情報は部隊等の初動対応に極めて有用である。

新潟地本では、今後自衛隊の即応性に積極的に寄与すべく災害情報官制度の拡充を図っていきたくしている。

新潟県

| 災害情報官の方々(順不同) |         |
|---------------|---------|
| 布川 孝氏         | 成田 憲正氏  |
| 工藤 三夫氏        | 加藤 操氏   |
| 土田 八八氏        | 石本 七郎氏  |
| 近藤 貴一氏        | 吉岡 正弘氏  |
| 市川 勝榮氏        | 鈴木 新太郎氏 |
| 小林 雄司氏        | 岩城 謙一氏  |
| 山崎 英治氏        | 石黒 利夫氏  |
| 大野 敏明氏        | 小柳 和男氏  |
| 富樫 久三氏        | 本間 恵次氏  |
| 西方 裕一氏        | 菅井 佐利氏  |
| 森山 敏明氏        | 喜多村 芳夫氏 |
| 田鍋 明文氏        | 高橋 正氏   |
| 小池 勝秀氏        | 庭野 鉄雄氏  |
| 山岸 博之氏        | 羽生 功氏   |
| 渡辺 洋一氏        | 平方 光治氏  |
| 堀 利博氏         | 横田 芳一氏  |
| 中村 稔氏         | 松浦 三郎氏  |
| 斉藤 文佐輔氏       | 村越 斗史文氏 |

## 県高校文化連盟 新聞専門部の 新発田駐屯地取材を支援



七高校の新聞部学生に  
新発田駐屯地を説明する  
新発田所長

新発田地域事務所(所長一陸尉渡邊守)は、十月二十九日(木)、陸上自衛隊新発田駐屯地において、新潟県高等学校文化連盟 新聞専門部の同駐屯地取材を支援した。

新潟県高等学校文化連盟は、県内の高等学校の文化活動の健全な発展を図ることを目的に、高等学校、特別支援学校(高等部)、中等教育学校(後期課程)、高等専門学校(高等学校相当学年)、専修学校及び各種学校(高等学校相当学年)の学生により組織され、「新潟県高等学校総合文化祭」の開催や各専門部毎の発表・講習会の開催、高校生らの文化活動に係わる調査・研究・記録を主な事業として活動している。

今回は、第二十三回新潟県高等学校総合文化祭の新聞大会として、各高校の新聞部員等が新発田市内の各地を取材した。その一環として同駐屯地には、七高校の新聞部員の学生やその顧問の教員等四十三名が取材に訪れた。

取材は、渡邊所長と駐屯地広報室の田中一陸曹が対応し、初めに陸上自衛隊の概要や同駐屯地の沿革等を映像を交え説明した。引き続き、隊員居室の見学、部隊喫食体験を実施した。訪れた学生はほとんどは、自衛隊駐屯地を訪れることが初めてであり、興味津々といった様子で見学している姿が見受けられ、特に自衛隊の職域の広さに関心を寄せていた。その後、車両整備工場での自衛隊備や、駐屯部隊の各種装備品等を見学した。また、厚生センターの見学においては、売店としてコンビニがあったり、厚生用としてインターネット端末が常備されていたりと驚きを隠せない様子であり、今回の取材で学生は、普段の自衛隊員の生活を知り、身近に感じられた様子であった。

## 即応予備自衛官雇用企業主等の 訓練研修を実施

援護課(課長 防衛事務官 泉山一郎)は、九月二十日(日)、陸上自衛隊 第四十八普通科連隊(連隊長 陸佐山崎倫明)の協力を得て、関山演習場において「即応予備自衛官雇用企業主等部隊訓練研修」を実施した。

この研修は、即応予備自衛官雇用企業主等に対し、即応予備自衛官訓練及び訓練に併せた制度説明を実施することにより、更なる即応予備自衛官制度への理解を深めていただき、爾後の訓練出頭環境醸成の資とすることを目的に実施したものである。当日は、県内即応予備自衛官雇用企業主等七社から企業主等十一名が参加し、第四十八普通科連隊の実施した班戦闘射撃競技会を研修した。



▲ 即応予備自衛官の射撃訓練を  
研修する雇用企業主

は、雇用企業主等に対し、即応予備自衛官制度及び現況説明を行い、「即応予備自衛官が訓練に参加するには、企業主の理解が欠かせない。今後とも協力をお願いしたい」と即応予備自衛官の訓練出頭に對する理解・協力を求めた。

これに対し雇用企業主等から「即応予備自衛官が行っている訓練を実際に見学し、訓練の必要性や訓練に励む隊員の意気込みを理解できた」との感想があり、即応予備自衛官制度の理解について非常に有意義な研修となった様子であった。

援護課では、今後とも訓練研修等の施策を活用し、即応予備自衛官雇用企業主等に対する即応予備自衛官制度の普及を拡充していきたいとしている。



▲ 書道の展示に歓声をあげる米海兵隊員

新潟県自衛隊援護協力会  
上越市内において県自衛隊援護協力会は、県援護協力会会長(大竹和夫氏)同上越支部長(唐沢紀雄氏)等、援護協力企業の十四社三十五名の方々が米海兵隊員十名を出迎えた。米海兵隊員は、「日本のもてなし」である。茶道を体験するとともに「日本の心」である書道も体験した。茶道において米海兵隊員は、本格的な抹茶の苦さや畳座りの苦しさに苦笑いする様子が覗えたが、書道では、畳一枚ほどの半紙に書道の先生が「寿」の字を一筆で一気にかく実演を行うと拍手と歓声をあげた。

新潟防衛懇話会  
柏崎市内の花栄寺においても、新潟防衛懇話会の推薦により、三井田孝欧氏や英会話に興味のある柏崎市民二十名が協力し、米海兵隊員十名を受け入れ座禅

は、箸の使い方に戸惑いながらも和食を中心としたメニューに舌鼓をうち、援護協力会員から扇子や日本手ぬぐい等のプレゼントが贈られると、米海兵隊員は身振り手振りを交えた会話で伝え、嬉しさを体現した。また、当日偶然誕生日である書道の先生を米海兵隊員がアメリカ流の歌でお祝いするサプライズもあり、終始和やかな雰囲気と笑顔の絶えない懇親会となった。



▲ 援護協力会員との記念撮影

県内自衛隊協力十団体が協力し、十月二十五日(日)、平成二十一年度日米共同訓練(米海兵隊との実動訓練)親善事業の一環である文化交流会(ホームビジット)が行われ、米海兵隊員に「日本の文化」を紹介した。同訓練は、関山演習場等において実施されたもので、同演習場を使用している訓練は今回で九回目数を数えるものである。同訓練に伴う文化交流会(ホームビジット)は、訓練の都度、毎回実施されており、県内自衛隊協力団体が受け入れを実施している。



▲ 花栄寺にて座禅を体験

お茶会等で日本文化を紹介した。また、地元産米や地元で捕れた魚のフライ等で観光地柏崎を米海兵隊員にPRした。

新潟県自衛官募集相談員連合会  
新潟県自衛官募集相談員連合会の上村浩子会長もホストファミリーとなり、米海兵隊員十名を受け入れた。上村会長宅が所在する十



▲ 上村会長による指導で  
「そば打ち」を体験する  
米海兵隊員

日町地区において、この時期に美味しいものと言えば「日本そば」と「キノコ汁」であり、上村会長は、米海兵隊員に喜んでもらうと「もてなし方」に知恵を絞って、ホームビジットにおいて、米海兵隊員に「そば打ち」を体験してもらいつつ、地元料理に舌鼓を打ってもらった。また、郷土芸能やヨサコイソーランも飛び出す演出でもてなした。招かれた米海兵隊員は上機嫌で、終始笑い声が絶えないうちにぎやかなものとなった。準備段階から奔走し「もてなしの心」で米海兵隊員を受け入れた上村会長は、「この様な草の根の交流を通じて、日米の相互理解が深まれば今回のホームビジットは大成功」と述べた。



◆ 本文以外に文化交流会にご協力をいただきました自衛隊協力団体(順不同)

・ 妙高市新井地域 自衛隊協力会

・ 妙高高原地域 自衛隊協力会

・ 妙高地域自衛隊協力会

・ 上越市自衛隊協力会

・ 新潟県自衛官募集相談員連合会

・ 上越支部

・ (社)隊友会新潟県隊友会

・ (社)全国自衛隊父兄会

・ 新潟県支部連合会

・ 上越支部

◆ ご協力有り難うございました。

◆ 本部長感謝状贈呈者

(五月から十一月贈呈順)

【就職援護協力】

株式会社新潟関合自動車学校様

株式会社山重様

頸城ハイヤー株式会社様

株式会社妙高カーデン様

【防衛基盤の育成】

新潟防衛懇話会様

【募集協力】

仙田一郎様

佐藤小夜子様

若林昭昭様

防衛省・自衛隊  
新潟地方協力本部  
携帯 HP サイト



www.mod.go.jp/pco/niigata/

## 小松基地航空祭に募集対象者を案内



募集課（課長 二海佐小暮桂一）は、十一月一日（日）、航空自衛隊小松基地航空祭に募集対象者等十三名を案内した。

参加者の中には、早朝に新潟を出発した疲れを隠せない者もいたが、航空祭会場である小松基地に近づき同基地所属の航空機が上空を通過すると、静かだったバスの中も急に活気づき、はやる気持ちを抑えきれない姿が見受けられた。

小松基地到着後、参加者は、見学開始直後に遭遇したF-15戦闘機の華麗な編隊飛行や機動飛行に釘付けとなり、加えて身体中に響きわたる轟音が臨場感がいやが上にも盛り上げ、普段の生活では味わえない世界に一気に足を踏み入れた様子であった。見学は、途中から天候が急変し参加者が楽しみにしていたブルーインパールの展示飛行が中止になる等、必ずしも満足できずる状態ではなかったが、参加者の感激した様子を見る限り、悪コンディションを補って余りある航空祭見学となった。

募集課では、戦闘機の迫力を間近に感じた参加者が大空への憧れをますます強くし、今回の参加者から航空学生を志望する若者が一人でも多く現れることを期待している。

## 地域最大級の総合病院からの初依頼 災害への備えに関心を集める

佐渡駐在員事務所（所長陸曹長 石川健治）は、十月二十五日（日）、佐渡市内に所在する佐渡総合病院からの依頼を受け、航空自衛隊佐渡分屯基地と協力し、同病院祭において、災害時における自衛隊による災害派遣活動のパネル写真展示や航空自衛隊の所管する「人命救助セット」展示等の一般広報を実施した。

この病院祭における一般広報は、地域最大級である同病院が、佐渡地域における大規模災害時に地域医療の要となることから、今後の連携等を踏まえ、初めて自衛隊による災害派遣関連の展示を佐渡駐在員事務所と航空自衛隊佐渡分屯基地に依頼し行われたものである。

新潟県中越地震や新潟県中



病院祭にて自衛隊の災害対処能力をPR



## 五年連続の快挙！ 東方美術展で新潟所の齋藤准陸尉

新潟募集案内所（所長 三陸佐 上林 浩）の副所長 齋藤 誠 准陸尉は、十月二日（土）陸上自衛隊朝霞駐屯地において、東部方面隊創立五十周年記念式典における芸術展入賞者授賞式に参加、堂々の五年連続受賞を果たした。

齋藤准陸尉は、陸上幕僚監部勤務時の平成九年から、陶芸・書道・絵画を趣味として始め、そのレベル向上の証として平成十四年から東部方面隊美術展に出展。平成十七年には、手工芸の部において初めて銀賞の入選を果たし、以来今年度まで最高賞である「特選」や「金賞」、「銀賞」等数々の受賞をしてきたものである。今回は、手工芸の部で「金賞」、書道の部で「銅賞」の入賞を果たした。

受賞した齋藤准陸尉は「五年連続の栄誉は自分にとって仕事の成果と同様の喜びであり、心底嬉しい限りです」と受賞の喜びを語るとともに、「仕事が充実すれば趣味も充実しますし、この成果がまた仕事に活かされればと思います。そしてこれからも趣味の創作意欲を保てるよう、公私ともに頑張っていきたいです」と今後の抱負を語った。

## 陸上自衛隊CH-47に搭乗して

六月二十七日（土）、陸上自衛隊高田駐屯地において、同駐屯地と共同で実施した陸自CH-47体験搭乗の感想が、高田地域事務所に寄せられたので紹介します。

●糸魚川市役所総務課 関澤 一さん（糸魚川市在住）



い日本海を見て感動とともに再び駐屯地に着陸しました。

帰宅する車中でも家族みんなの感動と興奮は冷めませんでした。私は、市役所で自衛官募集のお手伝いをさせて頂いてありますが、自衛官の方と接して感じることは、誠実でいつも穏やかという点です。今回の体験搭乗でも、真剣に黙々と訓練している隊員の方々の目の当たりにし、自衛官募集に精一杯協力したいと改めて感じました。

高田地域事務所の方から、六月二十七日高田駐屯地で行われるヘリコプターの体験搭乗にお誘いを受け、家族で搭乗させて頂きました。

私たちは、幸運にも第一フライトでエンジン始動前から機内に着席し、コックピットで行われている始動前のチェック、確認の様子を窺うことができました。

エンジン始動後いよいよローターの回転が速くなり、小刻みな振動とともに建物の二階、三階が水平に見えCH-47が地上を離れたことを感じました。

眼下に街並み、道路、水田、河川、新緑の山々に青



●(社)全国自衛隊父兄会 新潟県支部連合会 上越支部 会員 佐藤理恵子さん（上越市在住）

幸運にも六月二十七日、高田駐屯地で行われた体験搭乗でヘリコプターに搭乗させて頂きました。

機長から安全教育を受け、緊張と期待の交差する不思議な気持ちのまま、早速第一フライトとして搭乗致しました。機内に着席し、エンジン音とローター音が大きく、全身に感じる振動が速く変化した瞬間、窓の外は土埃となり、CH-47はふわりと地上を離れ、どんどん高度を上げていきました。住宅が小さく見え、長く伸びる国道と関川、水を張った水田、海開き間近の日本海、ドラマ「天地人」のジオラマを上回る本物の緑濃い春日山を眼下に美しい郷土を堪能出来ました。今回の体験搭乗は、楽しく有意義な時間でしたが、搭乗されている隊員の方々は凄くエンジン音と気圧の変化に堪え、日々訓練されていることに頭が下がる思いです。もちろん事前の機体整備、気象情報入手、飛行経路の申請など多くの方が関わって貴重な体験搭乗が実現できたことに感謝申し上げます。



# 第64回国民体育大会において自衛隊体育学校所属の新潟県出身隊員が活躍しました!

柔道(成年女子)新潟県念願の初優勝  
國原頼子2等陸曹(新潟市出身)



トキめき新潟国体



ボクシングウェルター級優勝  
平野義幸2等陸曹(胎内市出身)



九月二十五日(金)、第六十四回国民体育大会「トキめき新潟国体」柔道(成年女子)団体に新潟県代表として出場した新潟市出身自衛隊体育学校所属 國原頼子二陸曹が新潟地本本部に来部した。

國原二陸曹の主な戦歴は、平成二十年嘉納杯優勝、平成二十一年グラッドスラム・モスクワ大会優勝と数々の輝かしい栄光を勝ち取っている。また、その活躍が認められ今年度四十五年ぶりに新潟県にて実施された国体総合開会式において、選手宣誓を務めた。

## 本部へ来部



▲ 本部長と固い握手を交わす  
國原二陸曹

## 国体選手 國原二陸曹が来部

### FMラジオに出演



また同日、國原二陸曹は、新潟県下全域放送のラジオ局である新潟県民エフエム放送(通称「FM Port 79.0」)の番組に出演した。

國原二陸曹が出演した番組は、毎週月曜日から金曜日朝六時五十分から十時までの間、県内全域に放送されている番組「モーニングゲート」内の人気コーナー、頑張っている人に突撃交流する「サークルM」である。

番組収録は、約四十分間行われ、現在、國原二陸曹が自衛隊体育学校に所属するとともに国立埼玉大学大学院に通い、まさに文武両道の生活を送っていることや、「第六十四回国民体育大会 トキめき新潟国体」

### 腕相撲する一幕も!



総合開会式において選手宣誓を務めたことが紹介された。

収録中は、番組パーソナリティーである遠藤麻理さんと終始笑顔の絶えない会話が続き、遠藤さんと腕相撲する一幕もあった。そして最後に「今後の目標は、ロンドンオリンピックで金メダルをとること」と力強く目標を掲げ、まさに、心技体を兼ね備えた自衛隊員を県民にPRした。

## 新潟地本の熱血広報官が 競技役員として国体参加



国体山岳競技役員として参戦とした  
競技進行に寄与した頭師2陸曹



高田地域事務所(所長 一陸尉 渡邊智治)の広報官 頭師健一(二陸曹)は、十月三日(土)から五日(月)までの間、第六十四回国民体育大会会長(財団法人日本体育協会会長) 森善朗氏からの委嘱を受け、上越市安塚B&G海洋センターにおいて実施された第六十四回国民体育大会「トキめき新潟国体」山岳競技に、競技役員として参加し、整育・円滑な競技進行に寄与した。

この委嘱は、新潟県山岳協会から頭師広報官が所属する上越市山岳連盟に競技役員選考について依頼があり、「是非とも」と頭師広報官が名乗りを上げ委嘱されたものである。

頭師広報官は、「今後益々の成長と飛躍が期待できます」とクラブ所属選手の活躍の感想を述べるとともに、「競技役員として国民体育大会に参加し大会の運営に協力できたことを光栄に思います。また、微力ながら選手の方々の役に立てたことが思い出となりまして」と熱戦で幕を閉じた山岳競技を振り返った。